

柴田常恵資料の整理・保存作業

田中 秀典(國學院大學日本文化研究所共同研究員)

國學院大學学術フロンティア事業では、平成13年度から柴田常恵資料のデジタル化を行っている。本稿はその作業の成果についての中間報告である。

柴田常恵は、明治の終わりごろから昭和20年代まで50余年にわたって活動を行った考古学者であり、政府における数少ない考古学の専門家として全国各地の遺跡・史跡・文化財等の調査に従事した人物でもある。近代日本の文化財行政に深く関わった柴田常恵は、考古学だけでなく文化財関連分野等の研究史においても注目すべき人物であり、それらを研究する上で非常に重要な人物であるといえよう。また、その柴田が遺した資料は十分に研究対象となりうるものであり、デジタル化によってそれらの劣化を防ぎ再生・保存するに留めず整理・分析し活用することは、さらなる研究の進展に資するものであろう。だが、これまでは研究対象として柴田自身はほとんど扱われてきておらず⁽¹⁾、どのような人物であるのかもあまり知られていない。そこで、まずその経歴の整理を行い⁽²⁾、柴田資料の全体像を概観した上で、作業について報告する。

柴田常恵は、明治10(1877)年7月18日、愛知県春日井郡大曾根村(現、名古屋市東区)の瑞忍寺住職である柴田恵明の三男として生まれた。名前が「じょうけい」ではなく「じょうえ」であることも、僧侶の息子であることから考えると納得がいくであろう。同30年には単身上京し、真宗東京中学校高等科を経て、32年、私立郁文館内の史学館で歴史学を学ぶ。34年、台湾総督府学校講師となるが、翌35年に帰京して東京帝国大学雇となる。39年、同大学人類学教室助手となるも、史蹟名勝天然紀念物保存法が施行された大正9(1920)年には東京大学を辞して史蹟名勝天然紀念物調査会の考査員となった。ここで文化財保護行政との関わりが始まる。それと同時に内務省地理課の嘱託となり、昭和2(1927)年には事務の移管に伴って文部省の嘱託となる。また、この間、大正10年には東京帝国大学文学部標本調査嘱託を兼務した。その後は昭和7年から慶応義塾大学において講師として教鞭をとり、11年からは重要美術品等調査会委員、皇室林野局嘱託を務める。戦後は、25年に文化財専門審議会委員となるが、その4年後の昭和29(1954)年12月1日、脳溢血のため77歳で没した。

柴田の研究分野の中心は考古学であるがその学問領域は広く、縄文・弥生・古墳の各時代の考古学や仏教考古学から郷土史・歴史学一般に及んでおり、『石器時代の住居址』や『中尊寺総鑑』をはじめとする、多岐にわたる著作をもっている⁽³⁾。このことから、柴田は文化財行政に深く関わった人物であると同時に、考古学だけでなく仏教史や郷土史等にも造詣の深い人物であったことがうかがえる。

現在、國學院大學には、柴田が遺した写真・フィールドノート・拓本・自筆原稿類・乾板等の資料が所蔵されている。その詳細な入手の経緯については、必ずしも全体が明らかになっているわけではないが、柴田を師と仰ぎ自らを「外弟子」⁽⁴⁾と称する大場磐雄教授(当時)の手によって、柴田の死後になされたものである⁽⁵⁾。これらは収蔵された後に整理作業が行われ⁽⁶⁾、その際に作成された、大場の手による目録の草稿等が遺っている。これによれば、資料の数量は、写真が5817枚、フィールドノートが83冊、拓本が5837枚、自筆原稿類が108冊⁽⁷⁾、乾板が177枚である⁽⁸⁾。

写真は47冊のアルバムに、基本的には県別に分けて収められているが(写真1・2)、1つの県が複数のアルバムにわたっているものや、1冊のアルバムに複数の県が収められているものが多い。また、県別の分類に含まれなかったものについては、「雑」・「補遺」・「不明」に収められている。写真には、柴田の手による撮影のものと、第三者から譲り受けたと思われるものとの混在がみられる。被写体については、

考古遺物や遺跡・仏像・寺院建築が大部分を占めており、それ以外のものは僅かである。また、必ずしも書式が統一されているわけではないが、写真の多くには、裏面等に撮影場所、撮影日時、対象物の種類・名称・由来等が記載されている(写真3)。記載者については、筆跡から柴田自身と思われるものが多いが、それ以外の人物、例えば柴田以外の人物が撮影した写真である場合はその撮影者によると思われるものもある。県別枚数では、アルバム3冊にわたっている愛知県が最も多く、合計514枚である。一つの場所を対象とするもので、最も枚数が多くまとまって存在しているのが、独立して1冊のアルバムにもなっている中尊寺であり、その数は119枚である。

フィールドノートは、通し番号を付したラベルが貼付されている。これは、柴田が全国の遺跡や寺院等を調査した際に記録したものであり、その性格上、断片的なメモ書きや対象不明のスケッチなどが多く、解読するのが困難である部分が多く存在する(写真4)。

拓本は、対象物ごとに分類して封筒に入れられ、その名称、採取した場所、日付等を記載した上で保管されている(写真5)。

自筆原稿類・乾板等は、ほぼ未整理のまま保管されている(写真6)。原稿類の中には、第1次世界大戦後、柴田がパラオに行った際の調査日記のようなノートもある。これには、調査の準備段階での出来事、船の中で見た島の絵、島々の通過月日・時刻、島の住人の様子や人数・男女比率などが、事細かに記載されている。

当事業では、まずこの中の写真資料についてデジタル化を行った。はじめに写真を全てスキャナーで取り込み、印刷やWeb公開といったさまざまな活用方法への対応を考慮して解像度600dpi・24bitRGBカラーのTIFF形式で保存した。次いで、この画像情報を、Web公開のため150dpi(長辺700ピクセル・JPEG形式)に圧縮する作業を行った。同時に、データのバックアップとしてハードディスクに保存した。写真には元々アルバム内での通し番号が付されていたが、電子情報化するにあたっては、扱いやすくするため県ごとに固有のファイル名と通し番号をつけて整理した。また、写真の裏や台紙等に記載されているメモ書きの読み取りを行い、写真の検索・整理等のために、アルバム上の通し番号・保存ファイル名の通し番号・写真の裏書の対照表を作成した。

デジタル化による保存は便利で劣化しないという長所があるが、当然ながら万能なわけではなく、機械の調子によっては見られないということが起こり得るし、場合によってはデータそのものが壊れて消えてしまうことも考えられる。当事業で柴田資料に先駆けてデジタル化を行っている大場磐雄資料においても、保存したデータが一部壊れてしまうということが起こった。なお、大場資料ではDVDとしていたデータの保存先を、柴田資料を扱うにあたってはハードディスクに変更している。大場資料の保存を始めた当時はDVDに保存するのが最良のものだと思われたが、それから2年ほどが経過して、以前はあまり考えられていなかったハードディスクへの保存がより優れているという評価がなされるに至った状況に対応してのことである。データのバックアップを取っておくことが重要なのは当然だが、目まぐるしい技術の進歩に遅れずに対応していくことも必要であるということも、これらの作業の過程であらためて認識させられた。

これらの成果のうち、写真資料全体のおよそ半数に相当する部分については『柴田常恵写真資料目録』として刊行した。残りの後半部分についても、準備が整いしだい刊行する予定である。また、処理されるのを待っているフィールドノート・拓本・自筆原稿類・乾板等についても、今後、随時作業を進めていく。

注

- (1) 柴田を中心に扱っているものには、大場磐雄「学史上における柴田常恵の業績」(大場磐雄編『日本考古学選集 第12巻 柴田常恵集』昭和46(1971)年11月、築地書館) 山内利秋「画像資料と近代アカデミズム・文化財保護制度」(『日本写真学会誌』65

- 2、平成14(2002)年4月)が見られるのみである。
- (2)『職員録』等で確認することができる部分については確認したが、それが難しい部分については、大場前掲書や日本歴史学会編『日本史研究者事典』(平成11(1999)年6月、吉川弘文館)等の辞典類に拠った。
 - (3)この点について大場前掲書に詳しい。
 - (4)大場前掲書。
 - (5)大場前掲書に、柴田の没後に拓本・ノート・遺稿を國學院大學が購入したとの記述がある。他のものについての詳細は明らかではないが、拓本については残されていた書類から昭和32年度中に購入したものであることが判明している。
 - (6)拓本の整理については篠崎四郎が中心となって行われたこと明らかになっているが、それ以外のものについては、関係したと思われる人物の多くがすでに故人となっていることもあり、その経緯や作業内容についても詳らかになっていない部分が多い。
 - (7)目録の表紙部分には106冊と記載されており、目録内で一致を見ていないが、ここでは個々のタイトルを挙げて算出している目録本文の数を採った。
 - (8)これらの資料は40年間にわたって学内の各所に分散して保管され、その後も度々保管場所も変更されていることなどから、資料の全体像を把握することの困難さを招き、残念ながら現在は必ずしも正確な数量を把握するに至っていない部分もある。
 - (9)写真の中には出版社に貸し出した後に所在不明となったもの、その後に返却されて別置されているものなどもあり、これらが正確な枚数の把握を妨げる一因ともなっている。



写真 1

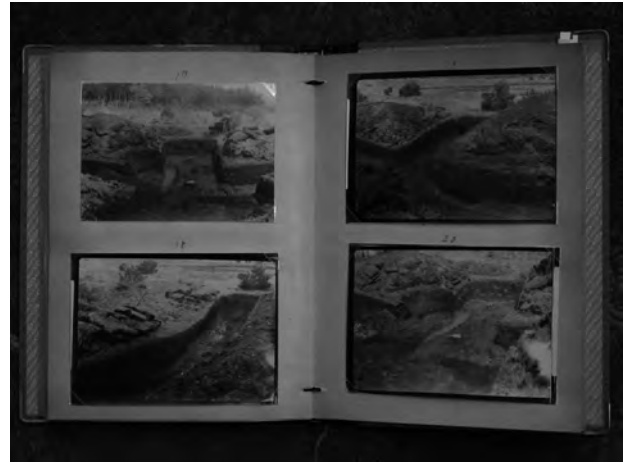


写真 2

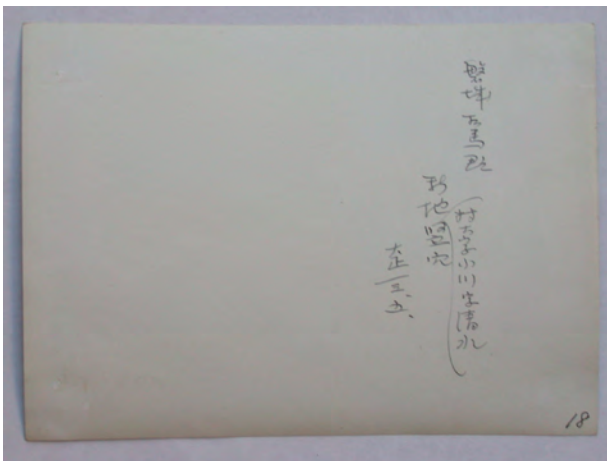


写真 3

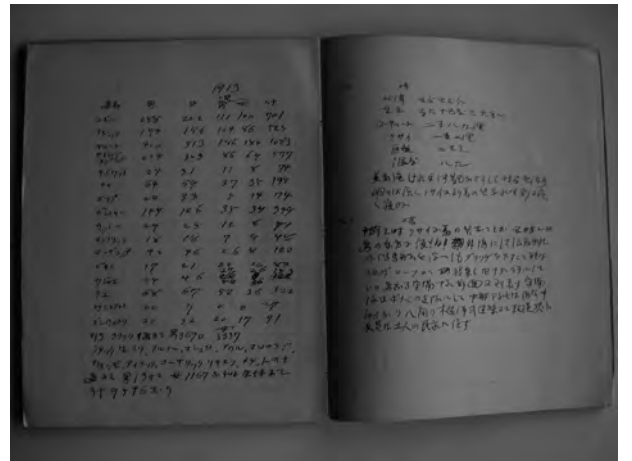


写真 4



写真 5



写真 6